

結果発表

フォト & 川柳コンテスト

市内で撮影した刈谷の魅力が伝わる写真を募集した「KARIYA PHOTO CON #私の刈谷2023」。フォトコンテストで選ばれた写真10点に合う川柳を募集した「川柳コンテスト」。各コンテストにたくさんのご応募いただき、ありがとうございました。

今回、入賞した作品を、審査員のコメントとともに紹介します。
 問 広報広聴課 ☎62-1001 ㊟ 1017110

審査員（敬称略）



刈谷市長 稲垣武
【フォト・川柳】



広報大使 MICRO
【フォト・川柳】



広報大使 前田直樹
【フォト・川柳】



フォトグラファー japan_umi
【フォト】



刈谷文化協会
【川柳】

審査員賞（順不同）

市長賞



①岩ヶ池
かおりんさん

講評
その時の気温や爽やかさなどのみずみずしい静かな空気が伝わってくるようです。普段、にぎわいのある刈谷ハイウェイオアシスが遠目にあることで、その静かさが非常に際立っているように感じます。

MICRO賞



④中川町
kawatakaさん

講評
「音楽で一花咲かそうぜ」と友人と夢を語り列車に揺られた帰り道を思い出す夕日。「周りの人の心に花を咲かせたい」という想いが強くなった今、この写真を見て、答えは既にここにあったのだと気付かせてくれました。この一瞬を切り取るってすごいですよね！

前田直樹賞



⑩交通児童遊園
m_a_c_photoさん

講評
きれいだな、魅力的だなと思う風景は人それぞれ違います。この作品はその場所に行ってみないと分からない魅力的な風景を想像させられました。僕の好きな映画の1シーンを観ているようです。

japan_umi賞



⑧市原稲荷神社
sygram.photoさん

講評
日の丸構図、上側の風鈴を支える柱の影で作られた額縁構図の両構図を的確に使われています。構図、色のレタッチ、全体のバランスが見事にとれており、これ以上良い写真は、この場所ではなかなか撮れないと思います。

入賞（順不同）



②朝日中学校前市川博基さん



⑨市原稲荷神社月さん



⑥依佐美のクスノキ deaf.kaboyさん



③フローラルガーデンよさみ周辺 kurosuke_corpさん

審査員賞（順不同）

市長賞
ぼくだってふとものおもう
【写真⑩】 中年やまめさん

講評
ひらがなのバランスも非常によく、ぬくもりが伝わってきます。電車の外が気になる子どもらしさと、どこか大人びたところが感じられます。

刈谷文化協会賞
夕焼けをふたり占めして夫婦の木
【写真⑤】 小野ふみさん

講評
中七の「ふたり占めして」が秀逸です。強い絆、深い愛情が読み取れ、夕日の美しい目にも浮かぶようです。「する」でなく「して」にしたのも我を出し過ぎず、読み手の共感をしやすいものになっています。

MICRO賞
並んでる依佐美のクスと君と僕
【写真⑥】 ルキーさん

講評
一番心に留まったポイントはクスノキを「クス」と表現されているユーモアさ！文字通り「クスと」と「さされ」思われ笑顔が溢れてしまうお気に入りの詩です！

前田直樹賞
初浴衣照れて水面の花火見る
【写真⑦】 マサノランさん

講評
勇気を出して誘った花火大会。花火で照らされた相手の横顔を見ていたら目が合い、照れ隠しで水面の花火もきれいだよと言っ…この川柳から映画のシーンが作れそうです。

入賞（順不同）

岩ヶ池雲も乗りたい観覧車
【写真①】 策々さん

陽は昇る朝日なる名の学び舎に
【写真②】 海神瑠珂さん

向日葵や故郷までの道しるべ
【写真③】 浦城亮祐さん

茜空ご苦労様と雲も言う
【写真④】 青木啓三さん

01 KARIYA PHOTO CON 応募総数 961点

準グランプリ hero_mar12さん



⑤依佐美のクスノキ

講評
MICRO
寿命の長い木と称されるクスノキ。二本寄り添うように立ち、刻一刻と過ぎゆく僕らの今を、ずっと昔から見守ってくれていたような安心感漂う1枚。

—— japan_umi ——
まさに日の丸構図のお手本となる写真で、全体のバランスがとても良く、魅了されます。

撮影者コメント
寄り添いたたずむ夫婦の間を明るくつなぐように、太陽を真ん中に光芒も大きめに出来るよう意識しました。

グランプリ moriさん



⑦わんさか祭りの花火

撮影者コメント
「わんさか祭り」は協賛企業ごとにさまざまな花火が打ち上げられるのが魅力の1つです。比較明合成と川への反射によって色とりどりな広がりを1つの写真に凝縮しました。

講評
—— 前田直樹 ——
音を感じられるようですてきです。中学1年生の時に始まったわんさか祭りの思い出がよみがえります。

—— japan_umi ——
見事な構図です。川の水面に彩る花火が映り込む場所を選ばれた事もすばらしいと思います。

02 川柳コンテスト 応募総数 771点

グランプリ あ一無精さん

作者コメント
一瞬で消えてしまう花火を心に留めたいという気持ちで詠みました。

講評
—— 刈谷文化協会 ——
思い出を「押し花にする」と表現したことが見事です。花火の美しさ、見た感動を大切にしたいという作者の思いが伝わってきます。



準グランプリ 板垣光行さん

作者コメント
「恋バナに夢中の2人を傍らで優しく見守る風鈴」という情景を詠みました。

講評
—— 刈谷文化協会 ——
風鈴は鳴るという固定概念でなく、「聞き耳を立てる」と受け止めたことに感心しました。二人の楽しげな語らいが聞こえてきます。

